東京慈恵会医科大学
葛飾医療センターニュース
Katsushika Medical Center News
2020
No.54
spring

編集発行責任者　吉田 和彦
〒125-8506　東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL:03-3603-2111（代表）
URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/
E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01. 診療科紹介（皮膚科）
02. 診療科紹介（救急部）
03. 部署紹介（医療安全推進室）、リハビリテーション科FAX外来受診案内
04. フロアコンサート、公開セミナー

診療科紹介〈皮膚科〉

皮膚科
築場 広一診療部長

当院皮膚科では8人の常勤医、1人の非常勤医で診療にあたっております。葛飾区およびその近隣には常勤の皮膚科専門医がいる病院はきわめて少なく、中核病院として皮膚に症状がみられる疾患全般の診療を行っておりますが、特に乾癬、皮膚腫瘍、膠原病の診療に力を入れております。

●乾癬（かんせん）

乾癬は全身に赤く盛り上がった発疹ができる皮膚病です。患者さんは皮膚の症状により生活の質が大きく低下します。根本的な原因は分かっていませんが、日本では年々患者数が増加しております。当院では塗り薬や飲み薬、紫外線治療でも効果がみられない重症の患者さんに対し、最先端のテクノロジーを用いて開発された生物学的製剤とよばれる注射の治療法を行っております。これまでに数多くの重症患者さんの治療を行っており、経験豊富な専門医が診療を行っております。この治療法が適しているかどうかは、診察を行って症状や患者さんの状態などをふくめて検討する必要があります。

●皮膚腫瘍（しゅよう）

皮膚の腫瘍には良性のものと悪性の“がん”があります。当院ではほくろや粉瘤、脂肪腫といった良性の腫瘍からがんまで多くの腫瘍の手術を行っております。小さな腫瘍は外来での日帰り手術で行い、大きな腫瘍や出血しやすいものは術後に入院をして頂き、安全に治療を受けて頂いております。

●膠原病（こうげんびょう）

膠原病は免疫の異常によって全身にさまざまな症状が出る難病です。膠原病のなかでも強皮症、エリテマトーデス、皮膚筋炎はさまざまな皮膚症状をともないます。皮膚症状は早期診断や病勢の把握にも重要であり、これらの疾患の診断と積極的な治療を行います。とくに手が冷えた時に手の指が白く変化する“レイノー症状”や爪のあまかわに細かい出血がみられる症状（爪上皮出血点）が膠原病のはじまりであることも多く、早期に診断して治療を行うことで、重症化することを防ぐことができる場合もあります。

診療科紹介〈救急部〉

●救急診療について

救急部
行木 太郎診療部長

2006年10月に当院の前身である青戸病院に救急部が設立され、2008年6月に私が専従医として着任、さらに2019年4月より黒田医師の後任として部長に就任し、現在、部長1名、副部長1名（総合診療部兼務）、医長1名、常勤医2名（1名は外科よりの出向）で診療にあたっております。

立ち上げ時にくらべ増員がなされたものの、専属医のみで24時間体制の診療を行うことはできず、夜勤につきましては内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科、内視鏡部の各科当直に加え（日によって不在科あり）、救急部、外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科から1名が出向した外科系救急当番医制度（不在日あり）をとっております。

救急部での初期診療、安定化処置、振り分けの後、大学病院というメリットを生かした各診療科での専門的治療につなげてゆきます。

先進的な医療機器、熟練した専門医たちの手による高度な医療の提供ができていると自負しておりますが、慢性的な病棟満床状態など、まだまだ改善の余地はあり、職員一同一層の努力をし、地域の皆様のために尽くしてまいります。

令和2年1月、名称が「総合内科」から「総合診療部」に変わりますが、今まで通り内科を基礎とした診療を継続してまいります。

●災害医療について

救急部は平時の救急診療に加え、万が一の大規模災害発生時の災害医療においても中心的な役割を担ってゆくことになります。葛飾区の場合、災害発生時に病院前に設置したトリアージポストで判断をし、歩行可能な方は隣の青戸小学校に開設され医師会の先生方が運営をされる災害時緊急医療救護所に対応をお願いし、当院は中等症以上の方々の治療に専念する体制になっております。一人でも多くの命を救うため、本体制の運用にあたり区民の皆様のご理解をいただく必要があります。ご協力のほど何卒よろしくおねがいいたします。

もう一点、令和元年台風19号による水害で千葉県庁内に設置された災害対策本部にDMATインストラクター資格をもった医師をロジスティック要員として派遣するなど全国的な災害対応にも従事しております。

引き続きの体制強化を図りながら、『病院の顔』、『病院の社会に対する窓口』と救急を位置づけ、『病気を診ずして病人を診よ』という本学の理念のもと、心のこもった医療を皆様に提供させていただきたいと思います。

部署紹介〈医療安全推進室〉

葛飾医療センター「医療安全推進室」をご紹介いたします。

医療安全推進室の役割は、医療事故を防止することが一番です。しかしながら、医療も人間が成す営みであるがゆえ、間違いを無くすことはできません。「間違いを犯した人」を責めるのではなく、「なぜ間違いが起きたか」を振り返ることによりシステムを改善し、再発防止に繋げることが重要です。

また、万が一、医療問題が発生してしまった場合は、迅速に情報収集し、誠実に対応するように心がけています。

医療は、患者さんと医療者の信頼関係を基本に営まれるものであり、患者さんも医療チームの一員として積極的に医療に参加していただくことで「安全で質の高い医療」が提供できると考えております。「病気を診ずして病人を診よ」の理念のもとに、患者さんが安心して医療を受けることができる体制を目指して、医療安全対策に取り組んでいます。

リハビリテーション科よりお知らせ

外来受診　FAX予約枠ができました

四肢体幹の麻痺や筋力低下、関節拘縮、失語症、高次脳機能障害など、何らかの障害でお困りの方がいらっしゃいましたらご相談ください。

障害を評価したうえで、残存能力を最大限引き出すためのリハビリ訓練や指導、自助具や装具の処方などを行っています。

また、痙縮に対するボツリヌス毒素治療も積極的に行っています。

予約受付開始	2020年2月1日（土）開始
予約枠	月曜日～金曜日 / 10:00～10:30（1名）、11:30～12:00（1名）
申し込み方法	従来のFAX予約診療申込書をご利用いただき、診療情報提供書を添付のうえ、お申し込みください。
ご留意事項	「吃音」の患者さんはお受けできません。 ※吃音とは、言葉が円滑に話せない、スムーズに言葉が出てこないこと。

フロアコンサートの開催について

2019年12月14日(土)に、当医療センター1階のロビーにてフロアコンサートを開催しました。今回は、「ドレミファソランド」の皆さんをお招きし、トーンチャイムを演奏いただきました。

トーンチャイムは、複数のメンバーがハンドベルを共鳴させることで優しい音色を奏でる楽器であり、当日は、「サンタが街にやってくる」など、クリスマスソングを中心に演奏いただきました。最後の演奏曲である「きよしこの夜」の際には、会場の皆さんと一緒に、「きよしこの夜」を歌って閉会となりました。

今後も、皆さんに「癒し」をお届けする企画を開催していく予定です。

公開セミナーを開催しました

2020年2月8日（土）に当医療センター5階講堂にて、第54回葛飾医療センター公開セミナーが開催されました。

テーマ　「ご存知ですか?「心不全」健康寿命を延ばしましょう!」

演　者:①循環器内科　関 晋吾　診療部長

「心不全の診断（心不全とは何か）」

②循環器内科　木下 浩司　診療医員

「心不全の治療（最新の話題もふくめて）」

③看護部　慢性心不全看護認定看護師　森 勇介

の演題で参加者は139名と大変多くの参加をいただきました。
参加者からの活発な質問もあり大変有意義な時間になったと考えております。

▶▶▶ 次回第55回は**2020年6月13**を予定しております。
詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。